

あとがき

『利賀村史』は、編纂委員会長米澤康氏の指揮のもと三分冊、全八章（後に全九章に変更した）の構成で編纂事業に取り組み、平成十一年三月に『利賀村史 2 近世』を出版した。その後は米澤氏の体調がすぐれなかつたこともあって中断し、米澤氏が十分に回復されることなく同年十月に逝去されたので、委員各位によつて執筆された原稿も宙に浮いたままとなつていた。

平成十四年度より、従来からの須河隆夫氏のほか、新たに佐伯安一、湯浅純孝、西井龍儀、金龍教英の各氏を委員に迎え、編纂事業を再開することとなつた。

同年八月二十一日には、再開後第一回目の委員会を開催し、監修と委員会長を佐伯委員、第一章（自然）を湯浅・須河委員、第二章（原始・古代）を西井委員、第三章（中世）を金龍委員が担当することを決めた。いずれも各分野の第一人者である。また、同日の会議では、執筆委員を別途選任すること、原稿執筆の一部を浦辻が担当することなども決め、後に菊川茂、小島俊彰、野原大輔、岡田一広の各氏を執筆委員に選任した。各氏のおもな所属・役職等は次のとおりである。

佐伯安一 富山県文化財保護審議会委員（元会長）

湯浅純孝 富山県自然博物園ねいの里館長、（財）日本鳥類保護連盟評議員・富山県支部長

須河隆夫 利賀村文化財保護審議会会長

西井龍儀 富山県文化財保護審議会委員、富山考古学会副会長

金龍教英 富山県公文書館嘱託

菊川 茂 立山カルデラ砂防博物館長

小島俊彰 金沢美術工芸大学教授 富山県考古学会会長

野原大輔 研波市教育委員会学芸員

岡田一広 利賀村教育委員会嘱託

浦辻一成 利賀村史編纂室長

その後、数次にわたって村史編纂委員・執筆委員合同会議を開き、細部を検討しつつ原稿執筆に取り組んでいた。この間、町村合併問題にからんで発刊時期が当初の平成十七年三月末から平成十六年十月末に繰り上がり、多忙な委員各位に多大なご迷惑をかけることとなつたが、平成十六年三月までには原稿がほぼ出そろい、無事発刊にこぎつけることができた。委員各位のご尽力に心から感謝を申し上げたい。

執筆分担等は次のとおりである。なお、共同執筆分は主たる執筆者を先に掲げた。また、（ ）内は図版の作成作業に加わつたことを示している。

監修 佐伯

第一章 歴史の舞台——郷土の自然——

第一節 地形と集落

須河・浦辻

第二節 地質

浦辻・菊川

第三節 気候

須河・浦辻

第四節 動物——生き物と共生——

湯浅

第五節 植物——分布とその特徴

須河

第二章 郷土のあけぼの（原始・古代）

第一節 氷河期を生きた人々

第二節 定住の始まり

西井

一
縄文時代

二 貴跡の分布と立地

卷之三

石器材料(1)正硅岩

ヒスイ製品 ～ ヒスイ製大珠

トチムキ石

三頭石斧・環狀石斧

四 信仰に支えられた生活

祭祀具・御物石器

石冠 丶 石棒 丶 石刀

生活環境の変化

第三節 生活環境の変化

四庫全書

問道遺蹟

岩渕久保平遺跡

三矢張下島遺跡

第五節 考古学研究の先達

西
井

岡田
(西井)

小島（西井・岡田）

岡田
(西井)

西井

野原
(岡田)

西井（岡田）

西井（岡田）

野原（西井・岡田）

第三章 真宗と五ヶ山（中世）

第一節 本願寺と五箇山

金龍

第二節 十日講と本願寺勤仕

金龍

第三節 戦国期の五ヶ山

金龍

第四節 中世の考古資料

西井

利賀村の歴史年表

西井・浦辻・金龍・野原・岡田

索引

浦辻・岡田

本書と同時に『利賀村史 3 近・現代』も刊行し、ここに『利賀村史』全三巻が完結することとなつた。多年にわたり、編纂事業にご協力いただいた村内外のすべての皆様に、深く深く感謝を申し上げたい。

（浦辻記）

○ご教示・ご協力をいただいた人々・団体

大平愛子、久々忠義、齊藤隆、佐伯哲也、高田盛政、立田佳美、橋本正春、長谷忠明、林浩明、藤田富士雄、古川知明、保科齊彦、宮田進一、宮塚義人、邑本順亮、山本正敏、米澤修、渡辺誠、井口村、西勝寺、飛驒市教育委員会

○測量、実測、復元など作業者

東咲子、石黒智子、笠原いゑ子、久保浩一郎、小倉尚子、齊藤寿美子、高熊りゑ、野原アナセシリ亞、水谷圭吾、（株）エイティック

(22) 考古学史年表（遺跡確認数の推移）

2000	平成12年	25	矢張下島・利賀下島・長崎・柄原念仏道場跡・大豆谷比丘尼屋敷跡	利賀村教育委員会・富山県埋蔵文化財センターによる分布調査で確認する。 〔利賀村教育委員会 2004『矢張下島遺跡発掘調査概報Ⅰ』〕
2001	平成13年	26	柄原峠東堀切・柄原峠西堀切・井波鶴塚	八乙女山砦跡から柄原峠東堀切・柄原峠西堀切を分離、井波鶴塚を登録抹消する。
			矢張下島	試掘調査を実施する。
2003	平成15年	27	矢張下島	本発掘調査を実施する。縄文時代中期から晩期、江戸時代の遺跡と判明。水さらし場遺構が全国で23番目に確認された。
			坂上東山・坂上権現平坂上館	村史編纂による分布調査で確認する。
2004	平成16年	28	岩渕浅生谷・細島宮平	村史編纂による分布調査で確認する。岩渕遺跡を岩渕久保平遺跡に、細島遺跡を細島西ノ平遺跡に名称変更する。
			矢張下島	本発掘調査を実施する。
			鉢巻山城跡	登録抹消する。

考古学史年表（遺跡確認数の推移）（21）

1957	昭和32年	12	坂上・上島・岩渕、豆谷 仙納原・細島	〔米澤 康 1957「五箇山の石器とその時代」『月刊北日本』7-6〕 ・上島の石棒、岩渕の三頭石斧、坂上赤谷の勾玉について詳述。
1959	昭和34年	15	仙納原・押場・ 北豆谷・大豆谷・利賀・利賀 東山・岩渕・北島・細島・上島・坂上御坊平・坂上望ヶ原・坂上赤谷・阿別当	米澤 康が利賀村内の遺跡を発表する。 〔米澤 康 1959「越中五箇山における縄文式遺跡・遺物」『地方史研究』39〕 ・大豆谷・利賀・利賀東山・北島の各遺跡の初見。利賀は以後の文献に記載なし。
1961	昭和36年	16	高沼	利賀中学校高沼分校教諭の保科齊彦により、村内初の発掘調査を実施。 〔保科齊彦 1961「高沼縄文式土器時代遺物包含地発見概況報告書」〕
1965	昭和40年	17	仙納原・高沼・ 押場・北豆谷・ 大豆谷・岩渕・ 利賀東山・北島・細島・上島・坂上望ヶ原・坂上御坊平・坂上赤谷・阿別当・伝大野権兵衛塚	〔富山県教育委員会 1965 『富山県遺跡地図』〕
1972	昭和47年	17	仙納原・高沼・ 押場 北豆谷・大豆谷・利賀東山 岩渕・北島・細島 上島・坂上望ヶ原 坂上御坊平・坂上赤谷 阿別当・伝大野権兵衛塚	〔富山県教育委員会 1972 『富山県遺跡地図』〕 ・高沼→縄文中・後、大豆谷・利賀東山→縄文、その他 →縄文後期
1977	昭和52年	17	岩渕	利賀村教育委員会からの依頼で、小島俊彰によって試掘調査を実施する。
1978 ～ 1997	昭和53～ 平成9年	20	八乙女山砦跡・ 井波鶴塚・鉢巻 山城跡	この間に3遺跡が登録される。
1998	平成10年	20	坂上望ヶ原	試掘調査実施。〔富山県埋蔵文化財センター 1999 『富山県埋蔵文化財センター年報』〕

(20) 考古学史年表 (遺跡確認数の推移)

1913	大正 2年	8	坂上地内	坂上村小字小宮の阪にて打製石斧を採集。(11月)〔米澤 1911 b〕
			坂上館	前川好則が石斧を発見。(春)〔米澤 1911 b〕
1914	大正 3年	8	上畠	中谷長太郎より上畠村御假屋屋敷発見の八角形小杯を寄贈。(2月)〔米澤 1911 b〕
			坂上館	敏麿が坂上小字館にて「石斧1箇」を採集。〔米澤 1911 b〕
			岩渕(久保ノ平)	端保作太郎から5月久保ノ平出土の「石斧3箇」寄贈。同、野原次七郎より「石斧1箇」寄贈。同、京井忠平より「土器片3箇」寄贈。(9月)〔米澤 1911 b〕
			北豆谷	斎藤清七より昨秋発見の「石斧1箇」寄贈。(2月)〔米澤 1911 b〕
			阿別当	向坂で「打製石斧1箇」採集。〔米澤 1911 b〕
			坂上望ヶ原	坂上村米澤甚十郎家付近で「磨製石斧1箇」発見。(11月)〔米澤 1911 b〕
1915	大正 4年	11	岩渕	野原善右エ門より前年11月中旬発見の「石斧2箇、土器片(土器の取っ手か)1箇」寄贈。〔米澤 1911 b〕
			上畠	打製石斧を発見。〔米澤 1911 b〕
			坂上(万草嶺)	米澤甚十郎より小字万草嶺付近で発見の「石槌1箇」寄贈。(6月)〔米澤 1911 b〕
			阿別当	「錘石1箇」採集。〔米澤 1911 b〕
			坂上(原)	坂上村小字原で「打製石斧1箇(稍欠損)」採集。〔米澤 1911 b〕
			北豆谷	野原清四郎、「磨石斧摧片2箇」発見。翌年3月寄贈。(4月)〔米澤 1911 b〕
1916	大正 5年	11	押場	荒井万吉、磨製石斧を発見。(10月)〔米澤 1911 b〕
				雲處、坂上西勝寺倉庫後の畠地で「石斧1箇」「石鎌十数箇」を発見。野原政吉、打製石斧「長さ7寸に達するものにして石質は利賀川に多い花崗岩の一種」を採集・寄贈。〔米澤 1911 b〕
			坂上館	敏丸、館にて土器の小破片を採集。〔米澤 1911 b〕
			岩渕(久保ノ平)	高田昇賢より久保平発見の「石斧の土中にて朽腐したもの1箇」寄贈。〔米澤 1911 b〕
1917	大正 6年	11	上畠	畠畔にて「円石1箇」採集。〔米澤 1911 b〕
				〔東京帝国大学 1917『日本石器時代人民遺物発見地名表』(第4版)〕
1918	大正 7年	11		米澤安立、没す。(享年47歳)
1936	昭和 11年	12	仙納原・岩渕・坂上	坂上「最(西)勝寺の裏山畠地」で「石棒・石斧・曲玉・石鎌」出土→望ヶ原・赤谷を指す。仙納原の初見。〔早川莊作 1936『越中史前文化』〕
1950	昭和 25年	12	上畠・岩渕(丸ノ上)・仙納骨原・細島・東細島・坂上・北豆谷・押場	〔富山考古学会 1950『富山縣石器時代遺跡地名表』〕 ・地名表には「尾ノ上」(正)を「丸ノ上」(誤)、「仙納原」を「仙納骨原」(誤)とする誤記がある。坂上で「曲玉」出土とは、坂上赤谷遺跡のことである。細島・東細島は同一の遺跡である(大正2年の字名変更により「東細島村」から「細島」になった)。

《考古学史年表（遺跡確認数の推移）》

西暦	和暦	確認 遺跡 数	遺跡名	状況・文献など
1906	明治 39年			米澤安立、坪井正五郎紹介で東京人類学会会員となり「人類学室」開設。(9月) 祖山で石棒を発見。米澤雲處より寄贈。(庄川沿岸五箇山地方で初の石器発見)(10月) 〔川本 清 1954「五箇山の石器と故米澤安立師」『越飛文化』創刊号〕
1909	明治 42年	2	細島(東細島)	農夫が石斧1、石棒1、異形石器1を発見。米澤が踏査し、土器片5~6点採集。 〔米澤安立 1910「越中利賀村発見の石器」『東京人類学会雑誌』293〕
			坂上(望ヶ原)	坂上(望ヶ原か)にて刃部が欠損した石槌転用品を発見。 〔米澤安立 1912「刃の缺損せる石斧を槌に用いたる一例」『人類学雑誌』28-3〕
1910	明治 43年	4	岩渕(尾の上)	無孔三頭石斧1、圓石3、石斧3、蛇の目石斧1発見。米澤踏査、土器片2~3点採集。 〔米澤安立 1911 a「十字形石器の類品に就いて」『人類学雑誌』27-3〕
			坂上赤谷	米澤専乗より赤谷勾玉を寄贈される。〔米澤安立 1911 b『微古室記録』第壹号〕
1911	明治 44年	5	北豆谷	浦辻清次郎、野原清四郎より米澤へ石器数点を寄贈される。 〔米澤 1911 b〕
				米澤、「人類学室」から「微古室」と改名。(12月)
1912	明治 45年	6	北豆谷	野原清四郎、野原平蔵より「石鑿1個 石斧4個」寄贈。(2月)〔米澤 1911 b〕
			岩渕(尾の上)	高藤新太郎より「土器破片數十片」、野原善右衛門より「石斧1個」寄贈。(5月)〔米澤 1911 b〕
			坂上御坊平	坂上小字御坊村発見の石器を得る。(7月)〔米澤 1911 b〕
1913	大正 元年	7	坂上望ヶ原	米倉仁十郎より同家附近発見の「石斧2個」寄贈。(8月)〔米澤 1911 b〕
			阿別当	小字向坂の砂道にて「打製石斧1個」を採集。(9月)〔米澤 1911 b〕
			岩渕	小字地田にて土器片数点と欠損した磨製石斧を採集。(9月)〔米澤 1911 b〕
			細島	東細島村高田長次郎が水田変換工事の際、石棒・石斧・石劍を発見。(11月)〔米澤 1911 b〕
	大正 2年	8	北豆谷	野原清四郎より小字猿峰で発見された「石斧、滑車形土器」を寄贈。「滑車形土器の発見は県下における嚆矢ならん」(2月)〔米澤 1911 b〕
			岩渕(久保ノ平)	端保作太郎より岩渕村小字久保ノ平で発見された土器(蓋)、石斧、磨製石斧寄贈。5月、米澤現地踏査を行い、「土器製作所」と推察。〔米澤 1911 b〕 高藤吟蔵より久保ノ平発見の石斧(俗に天狗の爪石といふよし)寄贈。同、久保間右衛門より土器片を寄贈。(7月)〔米澤 1911 b〕

(18) 利賀村の歴史年表

1580	天正 8	4月金沢御堂が柴田勝家らの攻勢で陥落 11月加賀一向一揆が壊滅的な打撃をこうむる	359
1581	9	2月までに佐々成政が越中に入部する 9月瑞泉寺顕秀が成政の攻勢に対し上杉景勝の出陣を求める。その返書が五ヶ山にも届く 佐々成政が瑞泉寺を攻略し瑞泉寺は五ヶ山をへて北野村に移る 光西寺が戦火に遭い、柄原に移住(慶長17年に西島に移転)	359 364 360 268 317
1582	10	4月上杉景勝が善徳寺に一向一揆を催促する	359
1583	11	6月本能寺の変で織田信長が自刃 前田利家の軍勢が瑞泉寺跡に築かれた井波城を攻める 6月佐々成政が赤尾に禁制を下す	359 367

《近世(前田氏越中入部以後、真宗関係を中心に)》

西暦	和暦	内 容	本書付属
1585	天正13	閏8月羽柴秀吉が瑞泉寺(砺波郡北野寺内)に禁制を下す 9月秀吉が前田利長に利波・射水・婦負の3郡を与える 10月前田利長が五ヶ山からの河上糸請取状を出す	
1596	慶長元	瑞泉寺が北野寺内から井波の旧寺地近くに移る	
1598	3	5月本願寺坊官の奏者が常願寺跡目について真光寺などへ書簡を送る	309
1601	6	西勝寺が本願寺から顕如絵像をうける	374
1605	10	大豆谷村空善が本願寺准如から木仏御免をうける	311
1607	12	西勝寺が本願寺から教如寿像をうける	374
1622	元和 8	西勝寺が本願寺から聖德太子・七高僧絵像をうける	375
1631	寛永 8	西勝寺が本願寺から親鸞絵像をうける	372
1649	慶安 2	井波瑞泉寺が西方から東派に改派	315
1665	寛文 5	池尻真光寺が西方から東派に改派	313
1685	貞享 2	加賀藩領内の寺が寺社奉行に由緒書を提出する この年までに城端に惣道場(瑞泉寺)が創建される	369 315
1686	3	西勝寺が専光寺に五尊下付の年時書上げを提出する	371
1745	延享 2	西勝寺本堂・庫裏が全焼	375

1481	文明13	2月瑞泉寺一向一揆が山田川田屋川原で福光城主石黒光義を討つ 文明年間、加賀砂子坂に城端善徳寺前身の坊舎が建つ	
1488	長享2	6月加賀の一一向一揆は守護富樫政親の城を攻め落とす	
1490	延徳2	赤尾の道宗はこのころから山科本願寺で毎年蓮如に面謁する	
1496	明応5	2月蓮如が赤尾の道宗(弥七)についての御文をしたためる	
1501	文亀元	12月赤尾の道宗が21ヵ条の信心の心得をしたためる	335
1506	永正3	長尾能景が増山城を攻める	
1513	10	実如下付の本尊裏書に「五ヶ山」の文言が初めてみえる	310
1519	16	長尾為景が越中に侵攻	
1521	大永元	7月長尾為景が再度越中へ侵攻	
1522	2	西勝寺が本願寺9代実如から本尊下付をうける	374
1523	3	蓮如25回忌に河上衆や五ヶ山衆が非時(夕食)の施主となる	319
1531	享禄4	加賀で大小一揆が始まり、越中勢も加賀へ進攻する	314
			333
1536	天文5	越中五ヶ山門徒から糸・綿などが本願寺に上納される	322
1537	6	10月平本正一と猪谷屋の本尊裏書に「利賀」の表記が初めてみえる	364
1538	7	本願寺が加賀一揆の指導者下田長門の成敗令を加賀・越中の門末に下す	326
1542	11	本願寺の三十日番役に越中衆が登場するようになる	
1546	15	金沢御坊が設立される	314
1552	天文21	10月五ヶ山門徒衆の86人が十日講の誓詞連判をする	336
1560	永禄3	10月武田信玄が瑞泉寺家宰上田藤右衛門尉に神保氏とともに景虎留守中の越後出陣を求める	
1562	5	前年に続き神保氏討伐のため上杉謙信が越中に進攻する	351
1565	8	3月本願寺が反上杉の姿勢を明らかにし、武田信玄と盟約を結ぶ	348
1570	元亀元	石山合戦起こる。西勝寺明順らが本願寺に鉄砲と塩硝を送る	356
1572	3	1月本願寺顕如が武田信玄に椎名氏の救援を要請する	
1573	4	1月を最後に椎名氏は史料に表われず、滅亡に至ったとみられる 4月武田信玄病死	354
1573	天正元	室町幕府が滅びる	355
	3	8月越前一向一揆が信長によって壊滅する	356
1580	8	3月石山本願寺顕如が信長と和睦 4月顕如が石山を退去	356
			357

(16) 利賀村の歴史年表

1181	養和元	7月野尻・河上・石黒党が源氏に味方して挙兵する	
1183	寿永2	5月源義仲が砺波山東に布陣し埴生八幡宮に戦勝祈願をする この日、義仲軍が平家軍を夜襲して破る	
		藤原利仁將軍三男が越中で井口氏と称して子孫繁盛する	
1185	文治元	平氏滅亡 源頼朝が守護・地頭設置	
1191	建久2	長講堂所領注文に新保御厨の絹・綿の課役がみえる(越中 産糸綿の初見史料)	328
1192	3	源頼朝が鎌倉幕府を開く	
1205	元久2	このころから法然の淨土宗が北陸・東海で盛んになる	271
1207	建永2	法然が土佐、親鸞が越後に配流となる	271
1209	承元3	6月法然上人絵伝に越中の光明房の名がみえる	271
1212	建暦2	信楽玉桂寺の仏像内に4,000人の越中国百万遍勤修人名がある	272
1298	永仁6	時宗二祖他阿真教が越中に遊行する	273
1299	正安元	時宗の淨阿真觀が野尻郷で念仏勧進を行い日蓮宗徒の迫害 を受ける	274
1306	嘉元4	高瀬荘が龜山天皇女昭慶門院の荘園となる	
1334	建武元	建武の中興	
1338	暦応元	8月足利尊氏が征夷大將軍となる(室町幕府の成立)	
1360	延文5	「存覚袖日記」に「水橋門徒」の文言がみえる	274
1362	康安2	桃井直常が井口城に逃げて隠れ、桃井の軍が離散する 桃井直常追討の二宮円阿が和田城や庄城で戦う	
1369	応安2	清水村住人秀君が真光寺創建	311
		9月得田章房が千代様城などを攻め、井口城が落城する	
1378	永和4	大豆谷八幡宮僧形八幡神像が造像される	390
1390	明徳元	8月沙門堯雲が越中井波に瑞泉寺建立の勧進状をしたためる	278
1392	3	8月京都相国寺の落慶供養に井口彦五郎らが参列する 閏10月南北朝の合一	363
1393	4	大豆谷八幡宮の小神像にこの年の銘がある	390
1413	応永20	12月東寺百合文書の越中国棟別錢免除在所書上に「なしと か いの口方」の文言がみえる	361
1456	康正2	11月井口国忠が高瀬荘地頭方代官職を請け負う	363
1467	応仁元	5月応仁の乱が起こる ~1477	
1469	文明元	7月蓮如は親鸞御影を瑞泉寺蓮乗に下付する	
1471	3	5月本願寺8代蓮如が越前吉崎に下向し北陸教化の拠点と する	282
1475	7	7月蓮如が井波を訪れて布教する(賢心物語)	283

弥生時代	AD.100 (後期)	・農耕集落が営まれ木製品が大量に使用される (上市町江上 A 遺跡)
古墳時代	AD.300 (前期)	・前方後円墳や前方後方墳が築かれ始める (氷見市柳田布尾山古墳) ・共通の特徴がある土器が使用され地方色が見られなくなる
	AD.400 (中期)	・大和政権がほぼ全国を統一する ・前方後円墳にかわって大型円墳が各地に築かれる (小矢都市谷内21号墳) ・各地で須恵器が使用されるようになる
	AD.500 (後期)	・埴輪のある古墳が築かれる (小矢都市若宮古墳・氷見市朝日長山古墳)
	AD.600 (終末)	・県西部を中心に横穴古墳がつくられる (福岡町城ヶ平横穴墓群)

《古代・中世》

西暦	和暦	内 容	本書対照
645	大化元	大化の革新 塁年詔が発布	
702	大宝 2	大宝律令が颁布され、越中国から4郡が分離して越後に編入する	
710	和銅 3	3月平城京に遷都	
746	天平18	6月大伴家持が越中の国司として赴任する ~751	
747	19	9月砺波臣志留志が東大寺盧舎那仏知識として米3000碁を寄進する	
748	20	この春、大伴家持は出舉のため砺波郡など諸郡を巡行する	
752	天平勝宝4	東大寺の大仏開眼供養	
759	天平宝字3	11月砺波郡伊加流伎野など越中の開田地図が上申される	
767	神護景雲元	3月利波臣志留志が墾田100町を東大寺に寄進する	
780	宝亀11	12月高瀬神が二上神とともに従五位下の位を授かる	
794	延暦13	10月平安京に遷都	
854	齊衡元	高瀬神が従三位の位を授かる	
910	延喜10	10月越中国の砺波郡川上・意斐などの村々の官倉での収納 高が「越中国官倉納穀交替記」にある	
1168	仁安 3	高瀬莊が京都鳥羽の安樂寿院内に供養の米を納める	

(14) 利賀村の歴史年表

利賀村の歴史年表

《原始》

時代年代		内 容
旧石器時代 (先土器)	25000年前	<ul style="list-style-type: none"> ・小型のナイフ形石器や局部磨製石斧を使用する人々が生活する (立野ヶ原遺跡群) ・姶良火山の火山灰が全国各地に降下する
	17000年前	<ul style="list-style-type: none"> ・縦剥ぎのナイフ形石器が使用される (福光町鉄砲谷遺跡) ・尖頭器が使用される (福光町立美遺跡)
縄文時代	13000年前 (草創期)	<ul style="list-style-type: none"> ・細石刃を剥ぐ舟底形石核が使用される (小矢都市日の宮遺跡) ・洞窟や岩陰を利用して生活する
	9500年前 (早期)	<ul style="list-style-type: none"> ・竪穴住居がつくられる (城端町神明原 A 遺跡) ・土器の文様に地方差があらわれる
	6500年前 (前期)	<ul style="list-style-type: none"> ・東海地方の影響を受けた薄手の土器が使われる (小杉町南太閤山 I 遺跡)
	5000年前 (中期)	<ul style="list-style-type: none"> ・半截竹管文など装飾性豊かな土器がつくられる (矢張下島遺跡) ・貝殻腹縁文などの特徴がある土器が北陸地方に広く使用される (串田新式土器・岩渕久保平遺跡・高沼遺跡)
	4000年前 (後期)	<ul style="list-style-type: none"> ・刺突文がある気屋式土器が北陸各地で使用される (福野町五百歩遺跡) ・平行沈線文を特徴とする土器が使われる (井口式土器・井口遺跡)
	3000年前 (晩期)	<ul style="list-style-type: none"> ・御物石器が北陸地方で広く使用される (矢張下島遺跡・西勝寺藏遺物) ・集落内に大きな木柱が環状に立てられた(井口遺跡)
弥生時代	BC.300 (前期)	<ul style="list-style-type: none"> ・弥生文化が西日本に広まる ・稲作が東北日本にまで広がる
	BC.100 (中期)	<ul style="list-style-type: none"> ・西日本で銅剣・銅鐸・銅鏡など青銅器が使われる ・櫛目文土器が各地で使用される (高岡市石塚遺跡) ・石器に代わって鉄工具の使用が進む

- | | | | |
|--------|---------------|---------|--|
| 孫五郎吉信 | 347 | 養照寺由緒書 | 358 |
| 益田照徒 | 360 | 吉崎 | 283, 300 |
| 又大郎家長 | 347 | 吉崎御坊 | 300 |
| 松尾の天柱石 | 378 | 吉藤専光寺 | 371 |
| 満座 | 320 | 米澤安立 | 379 |
| 万法寺 | 303, 304 | ら | |
| 三木良頼 | 352 | 了源 | 313 |
| 水橋門徒 | 274 | 林西寺 | 287 |
| 南光信 | 356 | 蓮欽 | 282, 314 |
| 明恵 | 370, 372, 374 | 蓮惠 | 314 |
| 冥加金 | 283 | 蓮華寺 | 368 |
| 妙敬寺 | 281 | 蓮悟 | 282, 289, 314, 331 |
| 明順 | 357 | 蓮乗 | 281 |
| 明心 | 331 | 蓮如 | 277, 279, 281, 282, 287, 290,
298, 300, 318 |
| 明清 | 370, 374 | 蓮如消息 | 285 |
| 三好三人衆 | 355 | 蓮如上人遺文 | 296 |
| 棟別銭 | 363 | 蓮如上人塵拾鈔 | 318 |
| 村殿 | 346 | 蓮祐 | 283 |
| 室牧 | 310 | 六字名号 | 283 |
| 木仏 | 371 | 六角承禎 | 355 |
| 木仏御免 | 375 | 六角義賢 | 348 |
| や | | | |
| 八乙女山砦 | 366 | わ | |
| 矢張下島遺跡 | 366, 376 | 綿 | 322, 328, 334, 339, 340 |
| 山科本願寺 | 296 | 和田本覚寺 | 287, 374 |
| 山の神峠 | 311 | | |
| 唯教寺 | 281 | | |
| 唯通重家 | 324 | | |
| 祐玄 | 357 | | |
| 猶子 | 277, 281 | | |
| 譲状 | 278 | | |
| 養照寺 | 357 | | |

な

- 長尾景虎(上杉謙信) 349
 長尾喜平次(顯景) 354
 長尾為景 330, 350
 長尾輝虎 349
 長崎遺跡 376
 なしこか 362
 如覺 308
 如秀 281, 282
 如乘 280
 如了 282
 如蓮 278
 野木加右衛門 310
 野尻 278

は

- 白山系の峰ルート 287, 288
 羽柴秀吉 366, 367, 370
 畠山勝王 330
 畠山氏 290
 畠山尚順 330, 350
 畠山基国 363
 畠山義綱 351
 畠山義英 330
 畠山義総 330
 鉢伏山砦 366
 塙生八幡宮 365
 番衆 306
 東赤尾村道宗一代記 290
 東本願寺 291, 369, 370
 比丘尼屋敷 377, 386
 非時 319

- 非時頭役 321, 335, 364
 秀君 311

- 日野一流系図 279
 日野家 275
 日野資康 277
 日野富子 277
 広橋家 277
 藤原良経 271
 二俣 280
 平家落人伝承 376
 平家落武者 384
 遍智院 277
 宝篋印塔 377, 382
 法然 271
 北条氏康 354
 細川高国 332
 細川晴元 332, 347
 堀切 367
 本覚寺 288, 290, 299, 302, 305, 314, 316, 318
 本覚寺道場 302
 本願寺 299, 328, 332, 336, 348, 352, 370
 本敬寺 317
 本郷 368
 本誓寺 301
 本泉寺 280, 281, 282, 313, 331
 本能寺の変 359

ま

- 前田利家 364, 370
 前田利長 370
 前田長種 309

- | | | | |
|--------|---|-----------|-------------------------|
| 神保長職 | 351, 364 | 醍醐寺 | 277 |
| 神保慶宗 | 330 | 大小一揆 | 314 |
| 親鸞 | 271, 275, 319 | 大乘院 | 300 |
| 親鸞絵像 | 371 | 大泉寺 | 314 |
| 瑞泉寺 | 271, 274, 279, 281, 283, 313,
314, 315, 340, 360, 365, 366 | 高沼遺跡 | 366 |
| 須恵器 | 366 | 武田勝頼 | 358, 360 |
| 杉尾峠 | 366 | 武田信玄 | 348, 351, 352, 354, 356 |
| 杉谷 | 278 | 田中平城 | 366 |
| 杉谷慶善 | 274, 278 | 超勝寺 | 290, 314, 333 |
| 杉谷峠 | 366 | 土山坊 | 330 |
| 図書了歛 | 341 | 手次寺 | 312 |
| 珠洲陶 | 366, 376, 378, 381 | 天下布武 | 354 |
| 須田満親 | 366 | 天十物語 | 289 |
| 勢觀房源智 | 272 | 天文日記 | 322, 325, 326, 329, 334 |
| 正宗 | 284 | 東寺百合文書 | 361 |
| 聖徳太子絵像 | 371, 375 | 道宗心得二十一ヶ条 | 290 |
| 専光寺 | 291, 305, 371, 374 | 道善寺 | 299 |
| 専称寺 | 274 | 道弥 | 288 |
| 禪照寺 | 310 | 道珍 | 341 |
| 専徳寺 | 305 | 道林寺 | 284 |
| 善徳寺 | 281, 314, 316, 359, 366 | 十日講 | 334, 336 |
| 善如 | 277 | 十日講起請文 | 325, 330 |
| 専念寺 | 357 | 利賀 | 364 |
| 僧形八幡神像 | 387, 390 | 徒覺 | 277 |
| 祖谷本敬寺 | 317 | 戸加谷 | 373 |
| 存覚 | 274, 277, 308, 311 | 富河谷 | 373 |
| 存如 | 277, 279 | 利加谷 | 372, 374 |
| た | | 斎 | 319 |
| 他阿上人法語 | 274 | 斎頭役 | 321 |
| 他阿真教 | 273 | 柄折峠 | 310 |
| 大一揆 | 332 | 柄原 | 367 |
| | | 柄原峠 | 366, 377 |

權現平	387	下間証念	353
嚴照寺	281	下間幸頼	353
さ		下間頼廉	356, 360
西円	299	下間頼秀	332, 333
齊光寺	311	下間頼賑	309, 370
西勝寺	311, 357, 369, 371, 374, 305	下間頼玄	319
斎藤龍興	354	下間頼充	324, 331
西念寺	310	寂証	275
西方寺	310	寂心	275
左衛門尉	341	綽如	271, 274, 277, 278
坂上次郎左衛門尉	346	修驗者	378
坂上東山遺跡	366, 376, 381	遵西	271
坂本保	303	准如	309, 311, 370
佐々成政	308, 360, 364, 367	淨阿真觀	274
さわん堂	377	小一揆	332
三十日番衆	306	淨円	275
三宝院賢俊	277	常願寺	308, 310
椎名氏	350	乗賢	308
椎名康胤	354	勝興寺	281, 282, 312, 313, 366
時宗	273	聖光寺	288
時衆過去帳	273	松岡寺	314
七高僧絵像	371, 375	淨宗	339
実顥	333	淨徳	288
実玄	282	証如	297, 321, 322, 334
実悟	279	称念寺	310
実乗	308	常楽寺	308, 310, 311, 312, 315
実如	277, 297, 318, 319, 331, 333	常楽寺少貳	310
実了	352	照蓮寺	331, 334
篠塚藤之進	288	白川	360
柴田勝家	359, 364, 366, 367	次郎左衛門尉	346
下田長門	326	真光寺	310, 311, 313
下利賀村惣道場	312	尋尊	300
		神保氏	350

か

- 加賀一向一揆 314
 加賀三ヵ寺 290, 331
 覚如 277, 308
 かこと善入 341
 頭人 319
 勝如 281, 282
 金沢御坊（御堂） 314, 359
 金沢支坊 340
 河上 360
 川上・五ヶ山衆 319
 河上衆 283
 河上十郷 326
 観進状 278
 かんだ 326
 蟹谷庄高木場 330
 関東管領 351
 北名道宗 341
 蔡雲 278
 教恩寺 313, 314
 経覚 300
 行空 271
 教順寺（大野市） 281
 教善 341
 経塚 386, 387
 行徳寺 285, 290, 297, 303, 342, 347,
 369
 教如 348, 356, 357, 359, 360, 370
 行如 274
 禁制 367
 空勝 357
 九条尚絅 277
 慶恩寺 314
 慶寿院 321
 慶順 284
 敬勝寺 317
 慶心 314
 毛坊主 341
 顯栄 353, 366
 顯秀 340, 356, 360, 365
 賢勝 308
 賢心 277, 282, 289, 314, 316
 賢心物語 277
 顯誓 332
 顯如 277, 347, 349, 354, 355, 356,
 357, 370
 見聞小録 379
 小出城 367
 光教寺 313, 314, 315, 332
 幸西 271
 広濟寺 314
 光西寺 317
 光徳寺 305
 巧如 277, 279
 興福寺 271
 光明房 271
 五ヶ山 286, 299, 310, 318, 319, 325,
 326, 328, 334, 356, 359, 360, 361,
 366, 369
 小来数専了 341
 古瀬戸陶 376, 377, 378
 五尊 371
 小屋場平城 366
 五輪塔 377, 382, 386
 五郎衛門尉 341

第3章(中世) 索引

あ

- 赤尾 367
 赤尾道宗 285, 287, 288, 290, 315,
 318, 320, 335
 赤尾道場 298
 明智光秀 367
 浅井長政 356
 浅井久政 356
 朝倉氏景 300
 朝倉義景 356
 足利尊氏 277
 足利義昭 355, 361
 足利義輝 350
 足利義教 280
 足利義晴 324, 332
 足利義満 363
 あへつたう了願 341
 阿別当の石仏 378
 新山峠 366
 新山砦 366
 安養寺 366
 石山合戦 355, 357
 石山本願寺 340, 355
 一向一揆 303, 360, 361
 一遍 273
 糸 322, 328, 334, 339, 340
 井口彦五郎奉忠 363
 井口美濃守国忠 363
 茨木長隆 332
 岩渕久保平遺跡 366
 上杉景勝 358, 359, 360, 361, 364, 366
 上杉謙信(長尾景虎) 349
 上杉輝虎 351, 354
 上梨村白山宮 303
 上畠徳祐 341
 上畠遺跡 366, 376
 魚津城 367
 越前一向一揆 356
 越前陶 376, 377, 378
 越中国百万遍勤修人名 272
 円西 341
 円宗寺 277
 塩硝 356
 円如 331
 延暦寺 282
 箐ヶ岳 287
 御仮屋々敷 379
 太田資正 352
 大谷本願寺 282
 大野権兵衛 384
 大野権兵衛塚 377, 381
 大豆谷経塚 387
 大豆谷道場 311
 大豆谷八幡宮僧形八幡神像 387, 390
 大豆谷村 311
 織田信長 349, 353, 354, 355, 356,
 358, 364
 小谷 310
 小谷島 310
 小原道珍 341
 御文 283, 290

- バナナ型石器 142, 170
 早川莊作 144, 151, 152, 176
 ハリ質安山岩 148
 ピエス・エスキュー 149, 237, 250
 東中江遺跡 116, 144, 152
 東村武信 148
 ヒスイ製品 151
 肥前 259
 複式炉 232
 別当 141
 ベンガラ 139
 北陸型 163
 北陸人類学会 263
 保科齊彦 127, 144, 182
 細島熊野社 135
 細島西ノ平遺跡 132, 135
 細島官宮遺跡 135
 掘立柱建物址 237, 259
 堀越正行 169
- 八尾 259
 矢張下島遺跡 116, 118, 129, 137, 144, 166, 175
 山岸良二 172
 山中樵 268
 山内清男 172
 山の神峠 124
 弥生時代 178
 八幡一郎 153
 有孔石器 132
 有舌尖頭器 119
 弓矢 119
 八日市新保式 118
 米澤安立 127, 138, 141, 142, 170, 177, 262
 米澤雲處 265
 米澤康 121, 137, 141, 142, 144, 151, 175, 195

ら

- 礫器 112, 204
 炉址 237

わ

- 和田千吉 268
 渡辺誠 156, 242
 藤井哲男 148

ま

- 前川甚雄 131
 前田式 202
 勾玉 141
 磨製石斧 120, 127, 131, 132, 135, 138, 141, 183, 191, 204, 232
 政所 141
 三日月形石器 171
 水さらし場遺構 129, 144, 237, 241
 門口 141

や

- 矢柄研磨器 119

(6) 第2章 (原始・古代) 索引

- | | | | | | |
|---------|---|----------|---------------|--|--|
| 早期 | 115 | 砥石 | 241 | | |
| 装飾石器 | 171 | 東京人類学会 | 263 | | |
| 草創期 | 115 | 刀剣形石製品 | 166 | | |
| 粗製土器 | 118 | 利賀下島遺跡 | 180 | | |
| た | | | | | |
| 第一の道具 | 163 | 利賀十八景絵葉書 | 176 | | |
| 大珠 | 152 | 利賀ダム | 129 | | |
| 第二の道具 | 163 | 利賀東山遺跡 | 129, 137 | | |
| 高倉忠則 | 138 | 土坑 | 237 | | |
| 高田善太郎 | 144 | 土製円盤 | 204 | | |
| 高田彦三 | 127 | トチの実 | 158 | | |
| 高沼遺跡 | 118, 124, 125, 144, 182 | トチムキ石 | 155 | | |
| 高橋健自 | 263, 268 | 独鉛石 | 121, 138, 172 | | |
| 打製石斧 | 120, 127, 131, 132, 135, 138, 141, 183, 191, 204, 250 | 鳥居龍藏 | 268 | | |
| 敲石 | 112, 120, 127, 131, 138, 183, 191, 204, 237 | ドングリ | 158 | | |
| 館 | 141 | な | | | |
| 豎穴住居 | 120, 232 | ナイフ形石器 | 112 | | |
| 立野ヶ原石器群 | 114 | 中島栄一 | 168 | | |
| 田島 | 125 | 長竹式 | 237 | | |
| 田向遺跡 | 142, 170 | 中谷寅造 | 135 | | |
| チャート | 250 | 中屋式 | 118, 237 | | |
| 中世館跡 | 141 | 揉錘器 | 112 | | |
| 彫器 | 112 | 新崎式 | 116 | | |
| 徵古室 | 264, 265 | 濃飛型 | 163 | | |
| 貯藏穴 | 120, 246 | 濃飛型扁平頭式 | 139 | | |
| 土掘り具 | 120 | 野原清四郎 | 127 | | |
| 角田真也 | 174 | 野原善右衛門 | 131 | | |
| 坪井正五郎 | 142, 263, 265 | 野原平蔵 | 127 | | |
| 定角式 | 131 | は | | | |
| 天神山式 | 116 | 土師器 | 259 | | |
| | | 橋本正 | 163, 169 | | |
| | | 長谷部言人 | 263 | | |

- 楔形石器 149
 串田新式 116, 185, 198, 232
 凹石 204
 黒笛九〇号窯式 180
 琥珀耳飾 191
 気屋式 118, 187
 下呂石 148, 237, 250
 見聞小録 267
 後期旧石器時代 111
 硬玉製大珠 152
 黒曜石 147, 250
 コザワシ 158
 小島俊彰 131, 144, 176, 202
 古代 180
 小林達雄 163
 小林行雄 151, 174
 古府式 116
 古府式期 229
 古墳時代 178
- さ
- 祭祀具 162
 西勝寺 127, 138, 141
 西勝寺遺物 176
 細石刃 112
 斎藤忠 152, 166, 171, 172, 177
 坂上赤谷遺跡 141
 坂上御坊平遺跡 139
 坂上館遺跡 141
 坂上望ヶ原遺跡 137, 138, 166
 削器 112
 三頭石斧 131, 159
 信楽 259
- 自然流路 232, 237
 刺突文 116
 柴田常惠 142, 170, 263, 268
 下梨こもむら遺跡 152
 下梨花房遺跡 181
 下野式 118
 蛇紋岩 131, 146, 232, 250
 使用剝片 127, 183, 191
 縄文時代 111
 縄文土器 129, 138, 183, 197, 229, 232
 白河型石器 173
 新崎式期 229
 須恵器 191
 珠洲 183, 259
 ステッピングストーン 245
 擦石 120, 138, 204
 正珪岩 150, 204
 精製土器 118
 石核 112
 石刃 112
 石錘 127, 183, 191, 204
 石鎌 119, 127, 138, 141, 183, 191, 204, 237, 250
 石刀 121, 174
 石棒 121, 127, 131, 132, 135, 137, 138, 174, 204, 232, 237, 250
 石塊 112
 石冠 121, 131, 138, 143, 166, 250
 石器材料 146
 濱戸美濃 259
 線刻石器 132
 尖頭器 112
 仙納原遺跡 125, 166

第2章(原始・古代) 索引

あ	江見水蔭 268
朝日下層式土器	円盤状土製品 204
阿別当	大豆谷遺跡 124, 127, 137
阿別当遺跡	御経塚式 118, 237
安藤文一	奥大勘場 125
E・S・モース	押上森藏 268
異形石棒	押場遺跡 127
異形石器	折戸五三号窯式 181
石錐	尾張猿技窯 180
石組み炉	か
石匙	貝殻条痕文 116
石皿	皆葎遺跡 111, 118
石田収蔵	灰釉陶器 180
石田外茂一	加曾利B式期 237
石鎚	滑車形土器 266
石鋸	滑車形土製品 127
石槍	合掌造り 259, 262
遺跡位置図	上山田・天神山様式 197, 229
稻作	環状遺構 237, 239
井口I式	環状石斧 131, 159
伊万里	環状木柱列 239
岩崎野式	環石 159
岩渕浅生谷遺跡	木内石亭 173
岩渕久保平遺跡	岸本雅敏 155
118, 129, 137, 144,	北島遺跡 124, 131
159, 166, 195	北豆谷遺跡 127
上畠遺跡	旧石器時代 111
梅原末治	凝灰石 257
ヴュルム氷期	局部磨製石斧 114
浦辻清次郎	御物石器 121, 139, 163, 250
越中瀬戸	

榆原累層	10, 14, 15	水無平	78
榆原礫岩層	11	水無ダム（利賀川ダム）	5, 8
は			
ハエ目	52	水無断層	11
鉢巻山	9	水無山	9, 21, 78
ハチ目	52, 55	ミズナラ—タニウツギ群集	64
爬虫類	32, 51, 54	ミズナラ・ケヤキ群落	92
バッタ目	52, 55	ミズナラ亜群集	89
東俣	87	ミズナラ群落	89, 91
飛驒古期花崗岩類	13	ミズバショウ	80
飛驒新期花崗岩	10, 14, 15	ムカシトンボ	42
飛驒变成岩類	10, 13, 14	百瀬川	8
ヒメアオキ—ブナ群集	89, 90	や	
表層雪崩（アワ）	18	薬草	95
風衝草原	87	谷内谷自然環境保全地域	53, 93
風衝低権木林	87	ヤブツバキクラス域	21
風衝林	5	山	7
ブナクラス域	21	山田川	8
ブナ群団	89	ヤマドリゼンマイ亜群集	94
船津花崗岩	14, 15	ヤマネ	45
冬日	15, 16	山の神自然環境保全地域	50, 88
北陸第三紀層	11	有斑紋（ミズバショウ）	80
ホトトギス類	28	ら	
哺乳類	23, 50, 54	落葉広葉樹林	56
ま			
真夏日	15, 16	陸産貝類	44, 51
豆谷ダム	15	竜口谷	77, 85
マルバマンサク—ブナ群集	89, 90	両生類	36, 51, 54
ミカヅキグサ亜群集	94	わ	
水無花崗岩	13, 14	脇谷のトチノキ	67
水無川	5, 78	渡り鳥	32

(2) 第1章(自然) 索引

甲虫類	40
コウモリ類	26
コオロギ類	42
古期岩類	10, 11, 12
黒鉛	14
コナラ群落	89
コムラサキ黒色型	39
金剛堂山	4, 9, 21, 57, 62, 84
昆虫	38
昆虫類	51, 54

さ

最高気温	15, 16
最低気温	15, 16
サワフタギ灌木林	79
山菜	95
湿原	61
準平原	4
晶質石灰岩	14
常緑広葉樹林	56
常緑針葉樹林	56
新第三紀層	10, 11, 12, 13
神通川	8
垂直分布	57
菅沼ダム	75
生態的地位	22
積雪量	17
石灰岩	14
ゼフィールス	39
セミ類	42
千束ダム	15
閃緑岩類	15
祖山ドーム	14

た

高峰	9, 21
谷名	7
タメ糞	24
淡水魚類	43
断層	11
暖帯林	21, 56
チシマザサ風衝草原	79
チャボイヌツゲ—キンコウカ群落	88
チョウ目	53, 55
鳥類	27
蝶類	38, 51, 54
鳥類生息マップ	32
ツグミ類	28
利賀川ダム(水無ダム)	5, 8
利賀断層	11
利賀地溝	12, 13
利賀のトチノキ	69
トチークサソテツ群集	64
トチータニウツギ群集	66
トチ亞群集	89
柄折峠	74
富山県自然環境保全地域	78
富山県立白木水無自然公園	78
トンボ目	51, 54
トンボ類	42
な	
中金剛	87
ナガレタゴガエル	48
雪崩	17
ニホンカモシカ	44

索引

注1、頻出する語句については、原則として重要なページのみ記載した。

2、原則として同一項目内は初出ページのみ記載した。

第1章（自然）索引

動物名・植物名は、重要なものを除き、目名を記すにとどめた。

あ

赤祖父山	9, 21
亜寒帯林	21, 56
アテビヨウ谷	5, 73, 78
亜熱帯林	21, 56
医王山累層	11
井田川	8
イヌツゲ—ミズゴケ群集	94
イヌワシ	29, 47
岩稲累層	10, 11, 13, 14, 15, 82
岩長谷	72
牛首断層群	11
牛岳	9
ウラジロガシ—ヒメアオキ群集	67
扇山	9
オオタカ	30
大寺山	9
大長谷川	8
奥金剛	87
オニグルミ—オクノカンスゲ群集	64
オニグルミ—ジュウモンシダ群集	66
御仏供水	70
温帯林	56

か

ガキ田	61, 62, 82, 84, 88
角閃石片麻岩類	14
花崗岩類	10
カサスゲ亜群集	94
カメムシ目	52, 55
カモ類	31
カラ類	28, 29
カリヤスモドキ—オオコメツツジ群落	88
カリヤスモドキ—キンコウカ群落	88
蛾類	43
カワネズミ	46
関西電力利賀ダム	15
キツツキ類	29
クマタカ	29, 47
クマ棚	25
クロコムラサキ	39
クロシジミ	49
ケヤキ群落	89
小アテビヨウ湿原	82
合口ダム	15
降水量	15, 16
降雪量	17
コウチュウ目	52, 55

利賀村史 1 自然・原始

平成十六年十月十五日 印刷

平成十六年十月三十一日 発行

編集 利賀村史 編纂委員会

編

利賀村史

編纂委員会

利

賀

村

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

員

会

史

編

纂

委

</

